

オープン市場短信 (2016年7月)

2016.7.20

◆ 6月のCP市場動向

6月末のCP（短期社債）発行残高は13兆5634億円と、前年同月比で▲2兆625億円の大規模減少となり、9か月連続して前年を下回る結果となった。

一般事法が積極的に有利子負債の圧縮を行ったことから、前月比でも▲6382億円の減少となった。内訳をみると、一般事法で▲1兆1975億円の減少であったのに対し、その他金融で+2595億円、金融機関で+545億円、ABC Pで+2453億円とそれぞれ増加した。

発行レートは、月中を通して0%～プラスで推移。投資家やディーラーの購入ニーズが強く、銘柄や期間を問わず0%近辺での出合いが多かった。このため一部銘柄で、マイナスレートでの発行が確認されたものの、積極的に買い進む動きには至らなかった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）0%近辺。一般事業法人（a-1格）0%～0.008%近辺。

その他金融銘柄（a-1格）0%～0.065%。

【業態別残高内訳】

(単位:億円)

業 態	6月末残高	5月末残高	増 減
一般事法	30,411	42,386	-11,975
その他金融	70,364	67,769	2,595
金融機関	19,103	18,558	545
政府系金融	400	0	400
銀行等	7,610	7,915	-305
証券	11,093	10,643	450
ABC P	15,805	13,352	2,453
計	135,683	142,065	-6,382

(注:買入消却分含む)

【格付け別の発行レート】

6月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	— ~ —	▲ ~ —	▲ ~ 0.0000%
a-1(一般事法)	▲ ~ 0.0550%	▲ ~ 0.0006%	▲ ~ 0.0050%
a-1+(リース銘柄)	— ~ —	0.0000% ~ 0.00001%	— ~ —
a-1(リース銘柄)	0.0000% ~ 0.0600%	0.0000% ~ 0.0700%	0.0000% ~ 0.0050%
a-2	0.0000% ~ ケ0.10%	0.0000% ~ ケ0.10%	0.0000% ~ ケ0.10%

《CPオペ》

6月のCP等買入オペは、6日・15日が4500億円・27日が5000億円（当初予定4500億円）と前月対比で増額のオファーだった。当初予定からさらに増額となった27日のオペでは、買い入れ対象が期末越えにつきレートの低下期待もあったが、平均落札レートは前々回・前回と変わらず▲0.001%であった。これは、オペの応札額が毎回1兆円を超える等、各ディーラーのポジションが相応に重たかったことが考えられる。

【月末オペ残高：2兆299億円】

日銀 CP等買入れオペ実績							
(単位:億円)							
実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
6月6日	6月9日	4,500	10,242	4,495	-0.004%	-0.001%	2.0%
6月15日	6月20日	4,500	10,792	4,483	-0.001%	-0.001%	92.7%
6月27日	6月30日	5,000	10,565	4,990	-0.002%	-0.001%	9.5%

《ABCP》

ABCPの月末残は、前月比+2453億円増加の1兆5805億円であった。前年同月比では、▲1534億円の減少となった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、6月末時点における発行登録企業数は、クレジットが新規登録を行ったことから、518社となった。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、0%近辺での出会いとなっていた。

◆ 7月のCP市場動向

7月のCP償還額は約1兆9115億円で、前年同月の償還額（約2兆8406億円）を下回っている（除く、相対発行分・金融機関発行CP・ABCP）。

今月の発行動向は、鉄鋼・卸売業等の復活発行が行われることから発行増を予想し、月末発行残高は14兆円台と前月の13兆5683億円を上回ると思われる。発行レートは、一般銘柄（1格）で0%近辺、その他金融・リース銘柄（同）で0%近辺～0.07%程度の出合いが予想される。発行量の多い銘柄や月中償還物では若干のレート上昇が見られるものの、総じて横ばい圏内での動きとなろう。

《CPオペ》

今月のCP等買入オペのオファーは、7日・15日・26日に各々3500億円程度と、

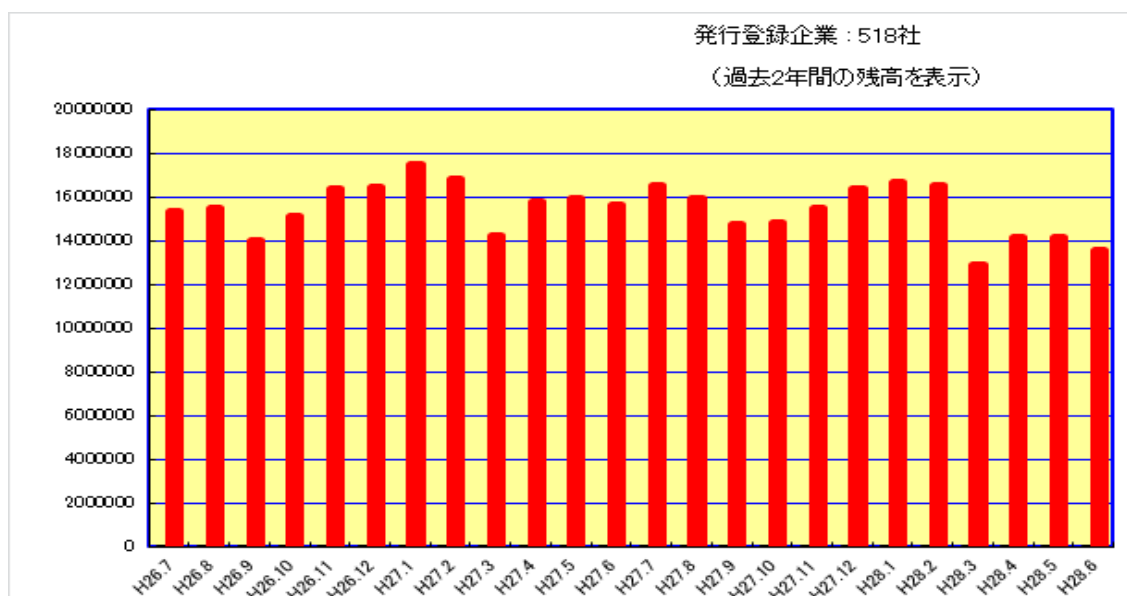
前月比で減額となっている。7日と15日のオペでは足切レートが▲0.001%と横這いとなり、ディーラーの売却ニーズの根強さが確認された。26日のオペについては、28・29日の日銀金融政策決定会合を睨み、やや入札を手控える動きが見られるか注目される。

《CP現先市場》

CP現先レートは、先月と同様に発行レートと同水準の0%近辺での出合いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高（26年7月～28年6月）



6月末発行残高ベスト10

6月末発行残高上位10社

(単位:百万円)

	発行企業名	6月末残高	5月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	878,200	882,700
2	三菱UFJリース	773,300	817,300
3	東京センチュリーリース	612,000	586,900
4	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
5	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	481,140	412,850
6	JXホールディングス	402,000	455,000
7	みずほ証券	371,300	390,500
8	芙蓉総合リース	367,200	342,200
9	興銀リース	366,600	359,800
10	JA三井リース	333,000	326,000

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243 号

大阪本社 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋 2 丁目 4 番 2 号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1 丁目 2 番 3 号

加入協会 日本証券業協会